UNIVERSITY OF YAMANASHI

はなみずき

（病院だより）

第25号

2003年1月1日
発　行
山梨大学
医学部附属病院

静かなること羊のごとく

― 年頭に当たって ―

病院長 熊　澤　光　生

皆様あけましておめでとうございます。

今年は未年ということでどんな年になるのでしょうか？

ヒツジは哺乳類，偶蹄目，ウシ科のヤギ亜科，ヤギ族に属する反芻獣とされていて，ヒツジにとってウシは遠い親戚，ヤギは近い親戚ということになります。ヤギもヒツジももともと野生で，ヤギは紀元前3，500年イラン地方で，ヒツジはもっと古く1万年前にアフガニスタンで飼養され始めたそうです。どちらも飼育目的は肉，乳，毛の三つのいずれかで，セーターやカーディガンで珍重されるカシミヤが採れるのはヤギだそうです。性質はヤギが活発ですばしこいのに対して，ヒツジは柔和で臆病，群を好むとされます。

昨年は午年で，吾が大学は駿馬のごとく全国国立大学の先頭をきって統合というゴールに到達しました。来年は申年で4月には国立大学法人化と卒後臨床研修必修化が予定され，サルのように智恵を働かせる必要がありそうです。その間にはさまった今年は，ヒツジのようにおとなしく静かにしているのがよいのではないでしょうか。「群」の字の右半に羊が認められますが，左半の君は音読みから昆に通じ，併せて「むらがる羊」を表すそうです。他の大学附属病院と群をなし，目立たぬように埋もれて周囲の動静を窺う年にしましょう。

なにごとも動きすぎはけがのもと，緩急自在がよしとされています。ここ郷土の智将武田信玄のモットー「風林火山」も，「疾きこと風のごとく，静かなること林のごとく，侵略すること火のごとく，動かざること山のごとし」といって，静止期を置くことを薦めています。私の趣味の一つ弓道においても，「静中動」という言葉が好んで使われますが，静かに動きのない中にも裂帛の気迫が込められたる射（しゃ）を良しとする意味合いです。

吾が病院は統合によって事務機能の低下と混乱が生じましたが，本年はそれらを調整し静かに来年に向かって力を蓄える年だと思います。我等に1年遅れて本年10月に統合する福井医大，島根医大，香川医大，高知医大，佐賀医大，大分医大，宮崎医大の7つの大学病院は，統合後の混乱が治まる間もなく6ケ月で法人化を迎える運命です。それに比して我々は1年半の余裕を持てたのは幸せだと思います。

羊のように静かに臆病に周囲に気を配って，基礎体力をつける一年にしようではありませんか。

安全管理大学間相互チェックについて

産婦人科学講座教授・副病院長
医学部附属病院安全管理室長　星　和彦

医療事故防止のための国立大学医学部附属病院間の相互チェックは今年で３年目を迎え，徐々にその効果も上がってきている印象を受けます。今年の本院に関係する相互チェックは10月から11月にかけて行われました。

10月25日は千葉大学医学部附属病院に対するチェックを群馬大学と本学が行い，11月６日には筑波大学と本学の担当で東京大学医学部附属病院のチェックを行いました。そして本院のチェックのため，11月18日に新潟大学と千葉大学の関係者が訪れました。千葉大学には森下院長はじめ群馬大学のメンバー14人と私を含め13人の本学の関係者が，東京大学には板井副院長はじめ11人の筑波大学メンバーと熊澤病院長以下14人の本学メンバーが視察に加わりました。本院には下条新潟大学附属病院長以下14名の新潟大学メンバーと平沢副院長はじめ12名の千葉大学の先生方が訪れております。

チェックはいずれも概ね同様の方式で行われます。まず，対象病院の医療事故防止に関する安全管理のシステムについての説明が担当者からなされ，次いで小グループに分かれて病棟，手術部，薬剤部，材料部，検査部，放射線部，輸血部などを見学しながら現場における安全対策に対する取り組み方のチェックが行われています。視察の後，関係者全体による総合討論が行われ，事故防止施策に対する評価と問題点の改善要求が出されます。チェックに加わった者の一人として，感想を簡単にまとめさせていただきますと，東大病院も千葉大病院も長い伝統と規模の大きさを誇る病院で，豊富な人材と資金力を背景に，新機構を巧みに取り入れながら着々と安全対策の実を挙げられているように感じられました。しかし，規模の大きさと伝統がネックとなり様々な点で小回りが利かないもどかしさがあるように思われました。

本院に対しても勿論厳しいチェックがなされましたが，概ね安全対策に対する取り組み方はいずれの部署でも好印象を与えていたようでした。医療事故防止・医療事故対策に関してしっかりと構築された管理システム，そして全国の大学病院に先駆けて実施したインシデントリポートの電子化と PHS の全職員への配布は特に高い評価を獲得することが出来ました。日頃のスタッフの努力が評価され大変よかったと感じております。しかし，細かい部分では厳しい指摘，例えば研修医と指導医のダブルチェックがカルテ上確認できない，カルテに記載者のサインが無い，患者総数に対して採用薬剤数が多すぎる，手術患者のネームプレートが小さくてはがれやすい等の意見が出されており，これらの案件については早急な改善もしくは検討が必要と思われます。

この「医療事故防止のための国立大学医学部附属病院間の相互チェック」は，決して相手の不備な部分を指摘するだけのものではないはずで，お互い率直に意見を述べ合い，改良できる部分は改善し，模範となるところはチェックする側としても学び，そして採り入れるという姿勢で望み，立場を同じくする病院同士が切磋琢磨して医療事故防止に関するより良い安全管理体制を確立させようというものであると考えます。今後とも相互チェックを通して全国の大学病院の優れている点を積極的に学んでいきたいと考えております。

附属病院でクリスマスコンサートを開催

毎年，好評をいただいているクリスマスコンサートが，12月17日（火）に，附属病院玄関ロビーにおいて開催された。今年は，甲府室内合奏団の宮川さん，田中さんと医学部オーケストラに加え，教育人間科学部の有志によるコーラスが加わり，クリスマスソングを中心に多彩な楽曲が披露された。わずか１時間余りであったが，会場に集まった約130名の聴衆は，ひとときのクリスマス気分を味わっていた。最後に全員で演奏した「きよしこの夜」は，美しいコーラスと演奏のハーモニーに，聴衆からの拍手が鳴り止まず，急遽アンコール曲を用意するという，嬉しいハプニングで幕を閉じた。

本院の看護職員募集用ビデオが「ＩＴＶＡI－日本コンテスト2002」銀賞を受賞

医学部総務課長 村松　薫

〔表彰状，トロフィーと出演者の皆さん；左から井下さん（５東），梅田さん（５東），壹岐さん（３東），秋山さん（７東），花形さん（７東）〕

去る11月，ＩＴＶＡ（International Television Association）－日本コンテスト委員会から，本院看護部が企画制作した，看護職員募集用の広報ビデオ「プライマリーナースを目指して」（ビデオ制作（株）横河グラフィックアーツ，映像制作（有）ウエナカ）が，今年度のコンテストにおいて，社外コミュニケーション部門の最終ノミネート作品に決定し，平成14年11月22日（金）に東京国際フォーラム「映像ホール」で，最終審査が行われるとの連絡が入った。

看護職員の確保は，本院に限らず全国的な課題であるが，特に，大都市圏から離れた国立大学附属病院の本院にとっては，深刻な問題である。例年，年度当初は充足するが，年度途中での出産・育児等による離職者を考えると，１人でも多くの優秀な看護職員を確保することが課題であった。塚原病院長（当時）から，病院長裁量経費を用意するから，看護職員の確保に有効な方法を検討するようにとの指示があり，事務担当者と看護部で相談した結果，ビデオの制作を思い立ったものである。

ビデオ作りでは，16分という限られた時間のなかで，本院の魅力を伝え，観てもらった１人でも多くの看護学生に，本院の看護職員を目指してもらえるよう創意工夫が求められた。看護部と制作会社とで度重なる打ち合わせを行い，企画制作，出演など，看護部の全面的な協力のもと，病院の理念をはじめ，本院の看護体制の特色であるプライマリーナーシング（１人の患者様の入院から退院までの看護に，１人の担当看護師が責任を持つ制度），プリセプターシップ（先輩看護師が新人看護師を教育する制度）の実際などが簡潔にまとめられた。全編を通じて，ごく自然に日常の仕事振りが描かれており，看護職を目指す看護学生にとって，大いに参考となる内容となっている。

ビデオの納品を待って，各大学・短期大学へ看護職員の募集要項を送る際に同封したり，山梨県内外の看護学校訪問時に持参するなどした。また，７月から８月にかけて行われた，看護学生を対象とした本院見学会において上映し好評を得た。

12回目となる今年度のＩＴＶＡ－日本主催「ＩＴＶＡ－日本コンテスト2002」には，社内コミュニケーション部門31作品，社外コミュニケーション部門37作品の応募があり，11月22日の最終審査では，各部門に最終ノミネートされた各３作品について最終審査が行われ，本院からは三枝副看護部長が代表して参加した。結果，本院の「プライマリーナースを目指して」は，社外コミュニケーション部門において銀賞を受賞した。

広く看護職員を募集するため，看護部が初めて企画制作したビデオ作品が全国規模のコンクールで栄えある賞を受賞したことは，大変名誉なことであるとともに，今回の受賞が企画制作面だけでなく，利用・運用面も含め総合的に評価されたものであることから，今後の企画にも大いに役立てていくこととしている。

受賞後の三枝副看護部長は「審査員の方々の講評では，私たちが伝えたかったメッセージを読み取っていただけたことに感激しました。企業の受賞作品が多いなか，このような賞を頂けたことは光栄であり，作品の制作に関わった全ての方々に感謝いたします。企画制作の目的は，多くの看護学生に本院を広く知っていただく，とりわけ看護の分野で大切にしている事やこだわり，そして看護学生へ希望や安心を映像の中で表現しメッセージを発信することでした。結果として，今年度の看護師への応募者は昨年を上回り，関係者一同喜んでいたところですので，今回の受賞は，二重の喜びとなりました。」と語っている。

医薬品投与時に必要な臨床検査の実施について

病院長 熊 澤 光 生

最近，医薬品に関わる重大な副作用が相次いで報告され，緊急安全性情報などのイエローレターが発せられた薬品は，平成14年度だけでも５薬品（ジプレキサ錠，パナルジン錠・細粒，イレッサ錠，ラジカット注，セロクエル錠）に上る。医療関係者は留意すべきものであり，詳細について薬剤部より発行しているＤＩ・ＢＯＸを参照願いたい。

これらの緊急安全性情報には，副作用防止又は初期段階での早期発見のために，「定期的な臨床検査の実施」を求める記載が多い。

しかし，「定期的」との文言に対しては，間隔を規定する適切な指針はなく，医師の判断に委ねられていた。当院採用薬の中で定期的検査の必要な医薬品処方時の検査実施状況を調査したところ，検査間隔は１ヶ月から最大２カ年と著しい差が生じており，統一した基準を設けることが必要と考えられた。

薬事委員会，安全対策委員会及び安全対策室にて検討していただいた結果，最近の医薬品添付文書には，「定期的（３ヶ月に１度）の臨床検査」などの記載があること，また，「定期的」との文言ではなく「３ヶ月に１度」と期間を明記した記載があること等から，各検討部会ともに『当院における「定期的」の基準は「原則的に３ヶ月毎」とする』ことが適当と判断した。

これを受け，当院においては『添付文書の使用上の注意に記載されている「定期的」の期間は，原則的に「３ヶ月毎」とする。』ので，診察時の定期的臨床検査実施の目安としていただきたい。但し，添付文書の「使用上の注意」に検査実施頻度が規定されている医薬品においてはその記述に沿っていただきたい。

平成14年秋の行楽弁当を実施して

栄養管理室長 阿佐美 薫

人があれこれと想いを馳せる季節の「春と秋」にお弁当形式で患者給食を提供するようになって一般食は４年目。特別食では２年目を迎えた。春には桜や花水木を，秋には鮮やかに染まった木々を愛でながらのひととき。そんなシチュエーションを描いてのこと。今では，病棟食堂で実施しているカフェテリアと並ぶ本院自慢の行事の一つとなった。今年も11月１日（金）に特別食を，続いて13日（水）には一般食を実施した。お弁当にはお品書きと，時節を表した手作りのメッセージカードを添えて提供した。行楽弁当に対する患者さんからの評価はすこぶる高い。これらのことが実施できるのも，よい職場環境と，優れた人材に恵まれているからに他ならない。これらに加えて，「夏と冬」バージョンも新たに考えてみようかと，この原稿を書きながら「ふっ」と思った。

（一般食）

（特別食）

オーストラリアの医療施設の研修・視察を終えて

栄養管理室長　阿佐美　　薫

より秋の色を濃くした平成14年11月２日から10日までの９日間に渡る「オーストラリア看護研修」の一員として参加機会を得た。参加者は看護師9名に加え，医師，薬剤師，理学療法士，栄養士が各１名の総勢13名。研修先は，①St.George Hospital ②Royal Brisbane & Royal Women's Hospital③Princess Alexandra Hospitalの公立病院３施設である。

オーストラリアの医療保険制度は，1984年に公的医療制度による国民皆保険体制が発足し，この制度によって全てのオーストラリア人が公的病院で自己負担なしで医療を受けることが保障される。但し，Medicare Levyとして個人収入（給料）の1.2～2.5％を保険税として徴収され，公的病院では入院費および診察・治療費は無料となる。この制度の対象外となるのは，自分で医師を選択する場合と，私立病院での入院・治療，薬代，健康診断，歯科治療費，予防接種等がある。公的医療制度以外の受診を補うために民間保険制度が提供され，加入率は国民の約45％である。病気に罹った場合は，まずはホームドクターにかかり，それから専門医や専門病院を紹介されるといった制度が確立されており，日本のようにいきなり大学病院や公的病院へ行くといったことはない。いずれの施設も病床600～750床であったにもかかわらず，職員数2，500～3，000名と驚くべき配員数であり，その内のおよそ半数が看護職員である。前述したように医療のホームドクター制度が浸透している医療環境の中で目立った日本の医療との差異は，①手術件数の約半分は日帰り。(St.George Hospitalでは年間2万件にも及ぶ。) ②いずれの施設も平均在院日数は4日前後と短い。③医療従事者のステイタスの高さと業務の分業化（細分化）。医療現場においては，医師，看護師，薬剤師，理学療法士，栄養士らがそれぞれの分野からディスカッションを行い治療方針を決めるということである。また，施設によっては，経営学・福祉学の修士号の資格を持つ看護師もおり，人材の層の厚さを痛切に感じた。業務の分業化では，ストレッチャー搬送を専業とする職員までもが配置されているとのことである。④救急救命センターの充実。広大な国土に住まう住民の医療を確保・維持するために救急病院としての受け入れ体制や施設はすばらしい。パプア・ニューギニアやミクロネシア諸島などの遠隔地までの医療支援も行っている。先にバリ島で起こった「無差別爆弾テロ事件」においても，医療救援活動を行ったという。

（ミーティング中の参加者）

栄養部門は，日本と全く異なる食文化が根差している。患者給食は基本的に外部業者からチルド加工されたものが搬入されるだけで，ナイフ（包丁）を使うことなどほとんどない。時折，生野菜サラダのみ調理（切る）するらしいが。食事内容は機内食（ECクラス）から副菜１～２品除いた程度のもの。もちろん配膳車には冷温装置なんていうものはない。栄養部門のスタッフは栄養士が2名（献立担当），残りは食数管理を行うオペレーターと盛り付け作業員である。選択メニューも導入していたが，在院期間が4日前後であるから一週間のサイクルメニューで事は足りてしまう。栄養士は，フードサービス担当と病棟に勤務する臨床担当に分かれていた。また，実際の食事指導に立ち会うことは出来なかったが，非常に大雑把のようである。例えばエネルギー制限の必要な患者には穀類や野菜，果物類を多く，肉や卵・チーズ・牛乳類は程々に，食油とバター類は少なくといった程度の指導であり，病院ではそれほど重要視していない。継続的な食事指導が必要な患者には地区単位で行っているヘルスサービスのスタッフに保健師がおり，臨床分野を含めた指導を行っている。

まとめとして，今回の海外研修で日本の医療環境・業務体制とは，かなり相違があること理解することが出来たが，それにしても職員数の潤沢さは羨ましい限りである。この点について各施設の財務担当官に，ここ数年の財務状況について質問したところ，年間予算の70％が人件費に費やされているということで財務内容は芳しくなく，州政府からも緊縮財政の要請措置があり，早急に人件費の削減を進めていかなければならないということであった。日本だけでなく，いずこも「人とお金」の問題で頭を抱えているようである。

7階東病棟の皆様

（患者様ご遺族からのお手紙）

本院で亡くなられた患者様のご遺族から次のようなお手紙をいただきました。今後の医療の糧となるよう匿名で原文のまま掲載させていただきます。（本文掲載についてはご本人の承諾を得ています。）

拝　啓

いつしか紅葉も落ち始め，辺りはすでに冬の寒気の中となりました。7階東病棟の皆様には今日もまた果てることのないお仕事に立ち向かわれていらっしゃることと拝察申し上げます。

振り返ってみますと夢のような7ヶ月でした。今，肉親が消え去ったことを受け入れる事の如何に耐え難いものであるかがわかりました。年を重ねてもなお未だ死を見つめることができなかった自分を知り，情けなくもあります。

母は遠く離れた所に住む姉には「いろいろありがとう」と伝えていましたが，私共には最後に言おうと思っていたようでした。母は，物事を冷静に見る一方で子供のような純真さを持ち続けてきました。私たちの思いに応えるべく最後まで頑張ってくれたのだと思います。

最期の頃，母は自分に言い聞かせる意識とは別に，死への恐怖と言い尽くせぬ寂寥感に直面していました。私は母の頬に伝わる涙を何度か黙ったまま拭ったことがありました。私にも子供のような無為な感情しかありませんでした。輪廻の理など私の感情は全く理解していないことを知りました。

私は毎日のように病院へ行く時間をつくりました。病院が多様で多数の人がつくる大きな社会であることを初めて目の当たりにしました。過敏になった患者やその家族から一挙手一投足に注がれる視線の中で，余りに多忙な先生方や看護師さん達の働きに頭の下がる思いでした。長きに渡って手の掛かる患者であった母に過分なお目をお掛けくださいました。母に代わり，そして残った家族を代表して心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

末筆ながら，今後の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。

敬　具

病院運営委員会から

※平成14年11月運営委員会審議事項等について

○　**医学部附属病院電子計算機システムの更新について**

平成15年度概算要求中の電子計算機システムの更新について，業務内容，診療支援系，財務会計システム，携帯ハンディ端末業務等について説明があった。

○　**歯科口腔外科外来の新患受付について**

歯科口腔外科の新患受付日について，これまでの週2日から月，水，木の週3日間とし，再来については月～金曜日とすることとした。

※平成14年12月運営委員会審議事項等について

○　**消化器内視鏡検査承諾書について**

消化器内視鏡検査に伴って「消化器内視鏡検査承諾書」を患者様からいただくことと，高血圧，心臓病，けいれんの薬を服薬中の場合は，2～3時間前までに服用していただくこととした。

○　**第2四半期患者満足度調査結果について**

本年度，第2四半期満足度調査の集計結果を報告し，これらの結果を参考に更に患者様のＱＯＬを高めていくこととした。

○　**消防訓練及び総合防災トリアージ訓練について**

消防訓練と総合防災トリアージ訓練を平成15年2月1日（土）の午前中に行う計画を立てているので，参加等協力要請を行った。

編　集　後　記

はなみずき新年号に「ＩＴＶＡ－日本コンテスト2002」銀賞受賞という明るいニュースを掲載することができました。制作に携わった関係者の皆さんおめでとうございます。編集委員会の後，16分間のビデオを見ましたが，記事の写真よりビデオの看護師さんは輝いております。視聴ご希望の方は，看護部及び総務課にありますのでご覧になってください。また，本院看護部では，随時看護職員を募集しております。お知りあいの方に本院看護部への就職を希望される方がおられましたら，看護部人事担当副部長又は総務課人事係長にご連絡くださるようお願いいたします。